

寮の食堂のテーブルとスパゲティナ。練習を終え、た野球部員たちはご飯を盛り、豪快

の中心は、調理師事務局長の道塚美穂。メニューは月2回。野球部の子も進むメニューを心

てもらったお米もてきた。「一俵入も町内でお米の寄付定だという。稲花などで米づくりが増えた。上た田んぼも引き受米づくりに励む。

し、肥料も資材も機械も高い。減反た。そりゃ、米はね」

回騰しているとはいも米をあげたい」出さんの耳に入っな。気持ちを集め

ごもったお米で体蓄えてきた榊原のは初めてのシード手権高知大会に挑

(原篤司)

のにとっても大切が高止まりしていま元を支援したり、野を工夫したりする

す。夏の選手権大会とお米を巡る様々を随時紹介します。



人の一人でもあ

朝日新聞 2025.6.24

毎日会える現代アート



高松芸術港の作品とディレクターの田中利孝さん—いずれも高松市サンポート



展示されているスタッフ・シユムスキの作品

瀬戸芸にあわせ「高松芸術港」11月まで

「高松芸術港」と題した現代美術の展覧会が、高松シンボルタワー（高松市サンポート）で開か

れている。五つの会期に分かれ、展示を入れ替えながら11月末まで続く。瀬戸内国際芸術祭の開催年にあわせ企画で、瀬戸芸の会期外でも毎日アートに触れられる。

7月28日までの会期のテーマは「第1章 出航」で、作家16人の「Spring-Summer」で、作家16人の

絵画や写真、立体作品などを展示する。

平田尚也さんの「Bathroom project」は、インターネットで集めた3Dモデルや画像を素材としたメディアアート作品。仮想空間でカモやクリスマスツリーが移動する。

ポーランドの若手作家スタッフ・シユムスキの作品展も同時開催されている。19世紀にフランスで生まれたジャカード織り

を使った新作などが展示されている。

シンボルタワーの運営会社と東京のギャラリイなどが主催。ディレクターの田中利孝さんは「過去と現代のつながりがテーマで、建築家丹下健三らの建築物が残る街、高松だからこその展覧会。（アートに対して）敷居が高いと思っている人にこそ来てほしい」と話す。入場無料。定休日なし。

(斉藤夏音)

飯南の桃 今年は豊作

丸亀で収穫始まる



色づいた桃を収穫する三谷知之さん—丸亀市飯山町東坂元

午前9時から「桃喰うまつり」が開かれる。今年は20回の節目で、桃の種飛ばし大会などが行われる。問い合わせは同撰果場（0877・98・3334）。

(福家司)

告知板

◆テーマ作品展 風景の奥行き—絵の中へ、心の中へ—7月13日までの9時〜17時、坂出市沙弥島の県立東山魁夷せとうち美術館（0877・44・1333）。「風景の奥行き」をテーマに「若葉の径」や「花明り」など東山魁夷の作品29点を展



BS朝日は 5ch 全国無料放送!



バナナムン日村と
サント伊達&口笛
ウォーキング
絶品コロッケ

